

ポスターセッション（P-土壌・地下水-1～5）

本セッションでは、土壌・地下水汚染物質の挙動やその浄化処理に関する発表が行われた。それぞれの発表題目と概要は以下のようなものである。

「道路排水の地下水環境土壌カラム試験における変異原性生成能の除去能評価」では、模擬道路排水を土壌カラムに浸透させ、土壌カラム流出水の変異原性生成能がかなり低いことを明らかにしており、水質リスクの総括的評価において、重要な情報であると思われる。

「マイクロ波支援連続フロー式逐次抽出 ICP 発光分析法による土壌中重金属の迅速形態分析法の開発 標準土壌試料の分析」では、土壌試料からの形態別重金属抽出法として用いられる BCR 逐次抽出法に代わり得る測定法として、従来法に比べ著しく迅速かつ簡素な測定法を提案しており、今後、重金属形態分析の分野を活発化する基礎技術となることが期待される。

「埋立地浸出水調整池における浄化処理に伴う底質微生物群集解析」では、高塩化物イオン濃度の調整池での浄化処理に伴い、底質微生物群集がどのように変化するかを PCR-DOGE 法により解析した結果を報告している。埋立地調整池の底質に特殊な細菌の存在などが示唆されており、今後の処理法の改善などへの応用が期待される。

「*Thauera* 属 R5 株によるアルキルフェノール及びアルキルベンゼンの嫌気的コメタボリズム」では硝酸還元条件において 4-アルキルフェノール類を分解する *Thauera* 属 R5 株を単離し、その分解経路を明らかにしており、今後の浄化処理効率改善への応用などが期待される。

「促進酸化処理法による有機塩素化合物の分解・無害化」では、ジブロモクロロメタンなどが紫外線照射で 70%以上分解したことなど、各種有機塩素化合物の促進酸化処理法による処理効率などを報告している。土壌・地下水汚染の有効な浄化法となることが期待される。

（京大・院工 米田 稔）